

第4章 計画作成に向けた把握調査

1 把握調査の手法

本計画では、文化財保護法第2条で規定する文化財に加え、その類型に収まらない本市固有の歴史や文化、人々の暮らしを物語るすべてのものやこと（生活文化、名産品、地場産業など）を含めて「歴史文化資産」と表記します。市内の歴史文化資産を抽出するために、以下の3種の調査や整理を実施しました。

(1) 既往調査整理、歴史文化資産把握調査

手法: 資料・文献調査

成果: 歴史文化資産のデータベース作成、既往調査のリスト作成

目的: 本市の歴史文化資産を幅広く把握し、計画検討の基礎資料とする事を目的に、県史・市史などの文献による調査とデータベース化を実施しました。また、既往調査を整理し、リストを作成しました。

(2) 歴史的建造物等^{しっかい}悉皆調査

手法: 現地調査

成果: 歴史的建造物カルテ作成、データベース作成、公民連携体制構築

目的: 本市は社寺を多く有する市であり、中世以来の建造物なども多く残っています。一方で町家や農家などの残存状況については広く周知されておらず、地域の歴史文化資産と周辺環境を明らかにする上で、悉皆的調査が必要であると考えられました。そこで、市域の築50年以上の建造物の用途や分布状況等を民間団体と連携して調査し、調査票の作成とデータベース化を行いました。

(3) 市民・学区・所有者・団体アンケート・ヒアリング調査

手法: 郵送

成果: アンケート・ヒアリング調査集計結果作成

目的: 市民・学区・所有者・団体から幅広く保存・活用の現況や課題を聞き、文化財行政の認知度や施策の方向性の確認を行うため、アンケート・ヒアリング調査を行いました。

2 既往調査整理、歴史文化資産把握調査

歴史文化資産の総合的・一体的な保存・活用のため、歴史文化資産の掘り起こしを目的とした指定・未指定文化財の調査を実施しました。

(1) 既往調査整理

本市の歴史文化資産を幅広く把握し、計画検討の基礎資料とする事を目的に、岡崎市教育委員会社会教育課の実施した調査や刊行した図書、研究報告書等を整理しリスト化しました（資料編掲載）。

(2) 歴史文化資産把握調査

愛知県史、新編岡崎市史、新編岡崎市史額田資料編、愛知県の近代化遺産、岡崎市歴史的風致維持向上計画、市制施行 100 周年記念誌「岡崎まちものがたり」、岡崎市東部地域遺跡詳細分布調査報告書、岡崎城跡整備基本計画-平成 28 年度改訂版-、東海道岡崎城下二十七曲り、岡崎市ホームページを調査し、歴史文化資産のリスト化を行い、歴史文化資産データベースを構築しました。なお、下記リストからは指定・登録文化財を除外しています。

集計の結果、合計 5,583 件の歴史文化資産をリスト化しました。

種類		件数
建造物	建造物、土木構造物、工作物	985
美術工芸品	絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、古文書、考古資料、歴史資料	3,245
無形文化	演劇、音楽、工芸技術、及びそれら技能の持ち主	6
無形民俗	民俗芸能、民俗技術、祭事、年中行事など	125
有形民俗	無形民俗に用いられる衣服、器具、家屋など	43
遺跡	古墳、貝塚、城跡、寺院跡、集落跡、古戦場など	1,107
名勝	庭園、並木、山岳、峡谷、河川、湖沼など	31
動物・植物・地質鉱物	動物、植物、地質鉱物など	38
文化的景観	棚田、里山、用水路、街道など	3
合計	-	5,583

※歴史文化資産の分類については本計画発行時点のものであり、今後の調査・把握の中で変更等を行う可能性があります。

※文献調査で把握し、現地・現物の調査が未実施の歴史文化資産を含みます。

※調査時点の情報であり、その後現状変更、撤去等されたものを含みます。

3 歴史的建造物等悉皆調査

岡崎市は古来より交通の要衝として栄えたことから中世以降の建造物や松平氏・徳川家ゆかりの社寺が市内に多く残されています。一方で町家や農家などの残存状況については広く周知されておらず、これらの建造物の集積状況を明らかにすることが歴史文化資産の一体的な保存・活用の上で重要であると考えられました。そこで、平成 28 年度（2018）から平成 30 年度（2020）にかけて、岡崎市全域に存在する歴史的建造物（社寺建築を除く）の調査を行いました。

調査手法

登録有形文化財の登録基準である築 50 年以上の建造物と戦前に建てられた築 70 年以上の建造物を抽出して、現地において外観を確認する悉皆調査（一次調査）を実施しました。愛知建築士会岡崎支部及び愛知県建築士事務所協会岡崎支部の協力を得て、対象物件の 15,659 件のうち、岡崎の歴史に関わるものや建築的な特徴が残っているなどの理由から保存・活用したいと感じる建造物について、調査票の作成と外観写真の撮影を行い、歴史文化資産となり得る建造物 1,859 件の調査票を作成しました。

調査結果

街道筋や宿、社寺門前において多くの建造物の分布が見られました。属性として、街道筋及び門前町では一般住宅や町家が多くみられ、山間部では農家が多く見られます。特に旧東海道沿いの宿場などは現在も多くの歴史的建造物が存在し、特徴的な町並みが形作られています。また、本市中心市街地は戦災で大きな被害を受けましたが、戦災を免れ、或いは被災しつつも修理され使い続けられた建造物が多く存在していることが、調査結果より分かりました。

社寺が多い本市において、社寺等と同様に一般住宅や町家、農家などの歴史的建造物が多く残され、歴史と風格ある町並みを形作っている状況を本調査から読み解くことができます。

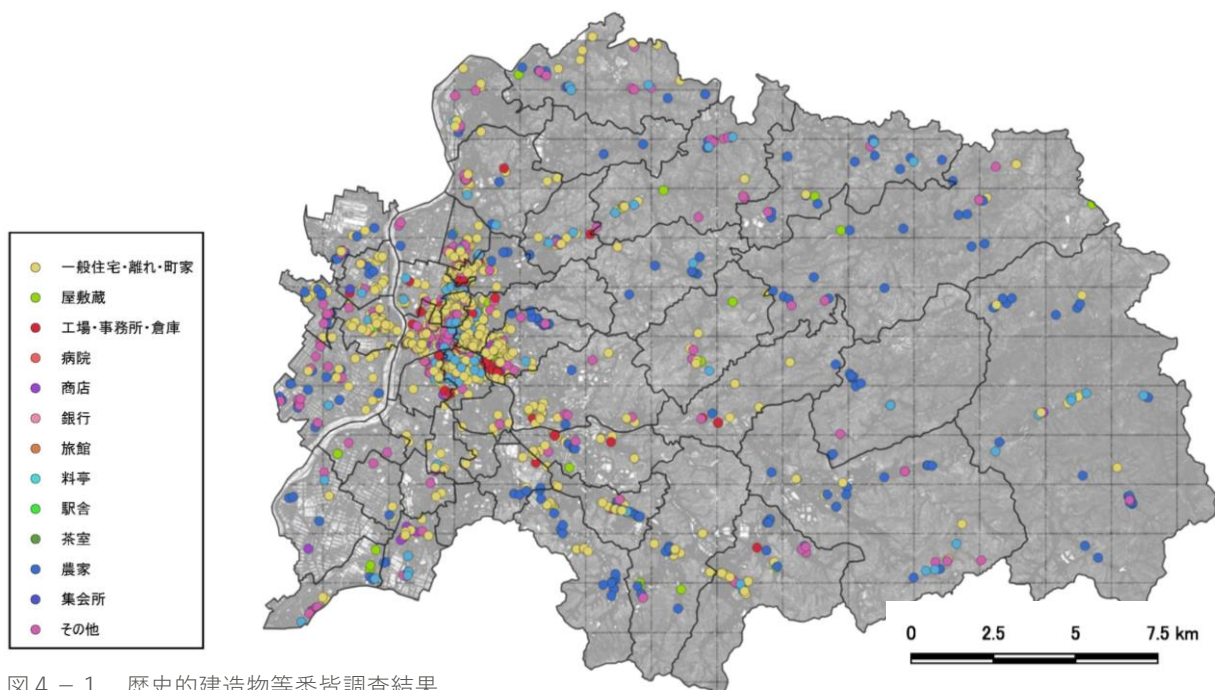


図 4 - 1 歴史的建造物等悉皆調査結果

4 アンケート・ヒアリング調査

計画作成に際して、市民・学区総代会長・文化財所有者や団体等に対するアンケート、ヒアリング調査を実施した結果、以下の回答が得られました。

(1)市民アンケート結果

市内に在住している18歳以上の市民から2,500名を無作為抽出し、アンケート調査を実施しました。

目的

- ・岡崎の歴史文化への認識調査
- ・身近な歴史文化資産や大切にしたいものの調査
- ・歴史文化資産の認知度や親しむ機会の調査等

対象

市内に在住の18歳以上の市民2,500名を無作為抽出

期間

令和2年1月15日(水)～
令和2年1月31日(金)

回答数・回答率

有効回答数 1,061件 (回収率 42.4%)

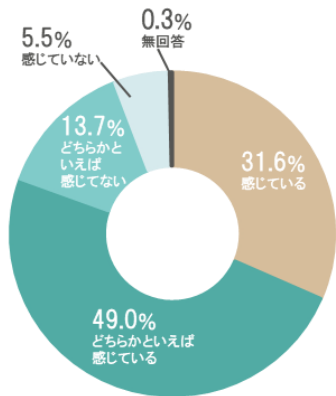


図4-2 あなたは、岡崎の歴史文化に誇りや愛着、魅力を感じていますか

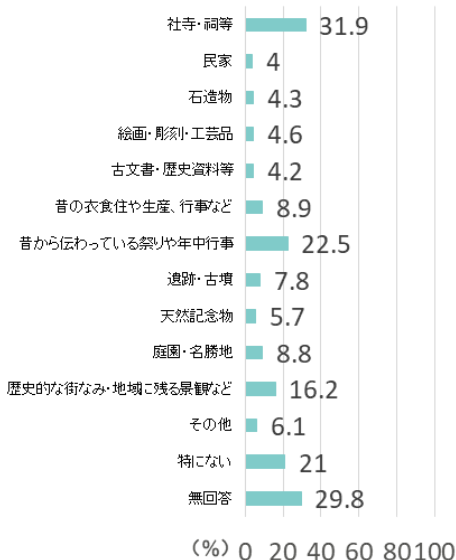


図4-3 あなたにとって身近な文化財、風習、大切にしたいもの等をお教えてください

歴史文化への関心

★マークの問いは複数回答可

関心があるが27.9%、どちらかといえば関心があるが47.5%を占め、関心を持つ市民が多いことが表れています。

文化財や歴史的資産から受けるイメージ

地域の歴史を語るものが62.6%、未来へ伝えていくべきものが59.9%など高い割合を持つ一方、魅力的な街の形成や観光・産業振興に重要なものも45.8%あり、地域の資産としても重要視されていることがわかります。

岡崎の歴史文化と聞いて思い浮かぶもの

岡崎城や家康公が93.6%、神社仏閣が47.6%となり、岡崎の地域特性に即した結果となっています。観光に関わる歴史文化資産の印象度が高い一方、地域で伝わる祭りや行事、伝統芸能なども31.9%であり、豊富な資産が地域に根差し、人々が愛着を持っていることがうかがえます。

身近な文化財・風習・大切にしたいもの

社寺・祠等が31.9%と最も多く、昔から伝わる祭りや年中行事も22.5%と高い一方、特になしが21%、無回答が29.8%あり、岡崎の歴史文化に愛着があるものの、身近な文化財・風習・大切にしたいものへの認識が希薄になっている状況が浮かび上がります。

行ったことや見たことがある文化財・歴史的な資産

岡崎城、大樹寺、六所神社、伊賀八幡宮、八丁味噌蔵などが高い割合となりました。一方、本市の管理する文化財で低い傾向があり、活用や周知への課題が見られます。

文化財や歴史文化資産に接する機会

観光・旅行が56.1%、年中行事等のイベントが41.1%、テレビ・ラジオの番組が37.3%と高いほか、学校の授業や行事も21.1%であり、重要な接点となっていることがわかります。

岡崎市の取り組みで知っているもの

ゲンジボタルの保護増殖と岡崎城跡整備が最も多く次いで旧本多忠次邸となっています。一方、保存修理支援や発掘調査などの他業務は低く、市民の認知度が低いことがわかります。

保存・活用の方向性で重要だと思うもの

次世代への継承が59.8%と最も高く、郷土愛の醸成30.4%、地場産業の活性化25.3%、にぎわい創出21.5%が続きます。歴史文化資産の保存継承を柱として都市魅力増進や地域活性化に資することが求められています。

どのような取り組みへ協力できますか

イベントや祭りへの参加が58.8%のほか、清掃活動や管理も21.1%であり、参画意向が高い傾向がわかります。

(2)学区総代会長アンケート結果

全 47 小学校区の総代会長を対象にアンケート調査を実施し、地域で保存・活用が図られる歴史文化資産の調査や課題・支援策の意向を探りました。

★マークの問いは複数回答可

目的

- ・地域で保存・活用が図られる歴史文化資産の調査
- ・課題及び支援策への意向調査
- ・市の施策への意向調査

対象

市内 47 小学校区の総代会長

期間

令和 2 年 1 月～令和 2 年 2 月 7 日（金）

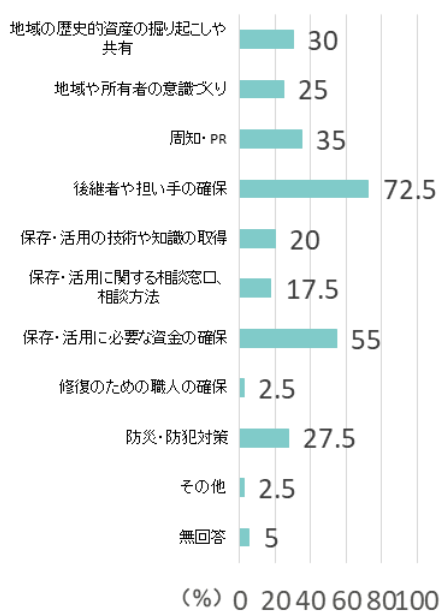


図 4 - 4 地域の文化財や歴史的な資産の保存・活用について、課題と感じていることはありますか

地域住民が中心となり保存・活用している文化財 ★

社寺・祠等が最も多く 77.5%、次いで昔から伝わっている祭りや年中行事が 65%、石造物が 47.5%となっており、石都岡崎としての文化財の存在も垣間見えます。

保存・活用について課題と感じていること ★

後継者や担い手の確保が 72.5%と最も多く、資金の確保が 55%。また、資産の掘り起こしや共有、意識づくり、周知 PR、防災・防犯対策なども高い割合となっており、地域の歴史文化資産の担い手不足や維持への危機感がうかがえます。

保存に関して望む支援 ★

修理費用の補助が最も多く 55%。保存状態の訪問診断 27.5%、保存に関する情報発信 25%など、地域で歴史文化資産を守るための資金面での支援に加え、技術的助言を求める声が多いことが分かります。

活用に関して臨む支援 ★

活動にかかる費用の助成が 55%、その他は学校教育との連携 25%、アドバイス、活動を支援する団体や組織の情報提供、地域の意識を高める講演会・セミナー開催など、回答が分散しました。活用に向けて、多面的な支援を必要としている現状が浮かび上がりました。

本市のまちづくりへの提案・期待・要望(自由記述抜粋)

◆歴史文化資産の積極的な PR

- ・情報発信の場が欲しい。
- ・歴史文化資産を展示する場所があるといい。

◆まちづくりへの活用

- ・歴史文化資産を活用しまちづくりを推進したい。
- ・歴史文化資産周囲に遊歩道や駐車場などの環境整備をしてほしい。
- ・専門性の高い歴史文化資産の活用に限界を感じる。

◆自然保護の推進

- ・自然保護活動を学区で推進している。
- ・地域の貴重な動植物に親しむ機会があるといい。

(3)ヒアリング調査

文化財所有者・保存団体を対象にヒアリング調査を行いました。

目的

- ・歴史文化資産の保存・活用の内容調査
- ・現状と課題の調査
- ・今後の展望の調査

対象・手法

所有者・文化財団体等（計 27）へ職員が訪問し聞き取り調査

期間

令和 2 年 1 月 22（水）～
令和 2 年 1 月 31 日（金）

回答傾向

保存・活用に関する課題について、所有者は維持管理費の確保を、団体は後継者不足を挙げるなど、担い手によって課題の傾向が異なりました。また、文化財の種類によっても課題の傾向が異なり、建造物・史跡などは維持管理費の確保を、天然記念物は後継者不足を課題とする傾向が多いです。活用については、所有者・団体共に積極的な周知を求める声が多くみられました。